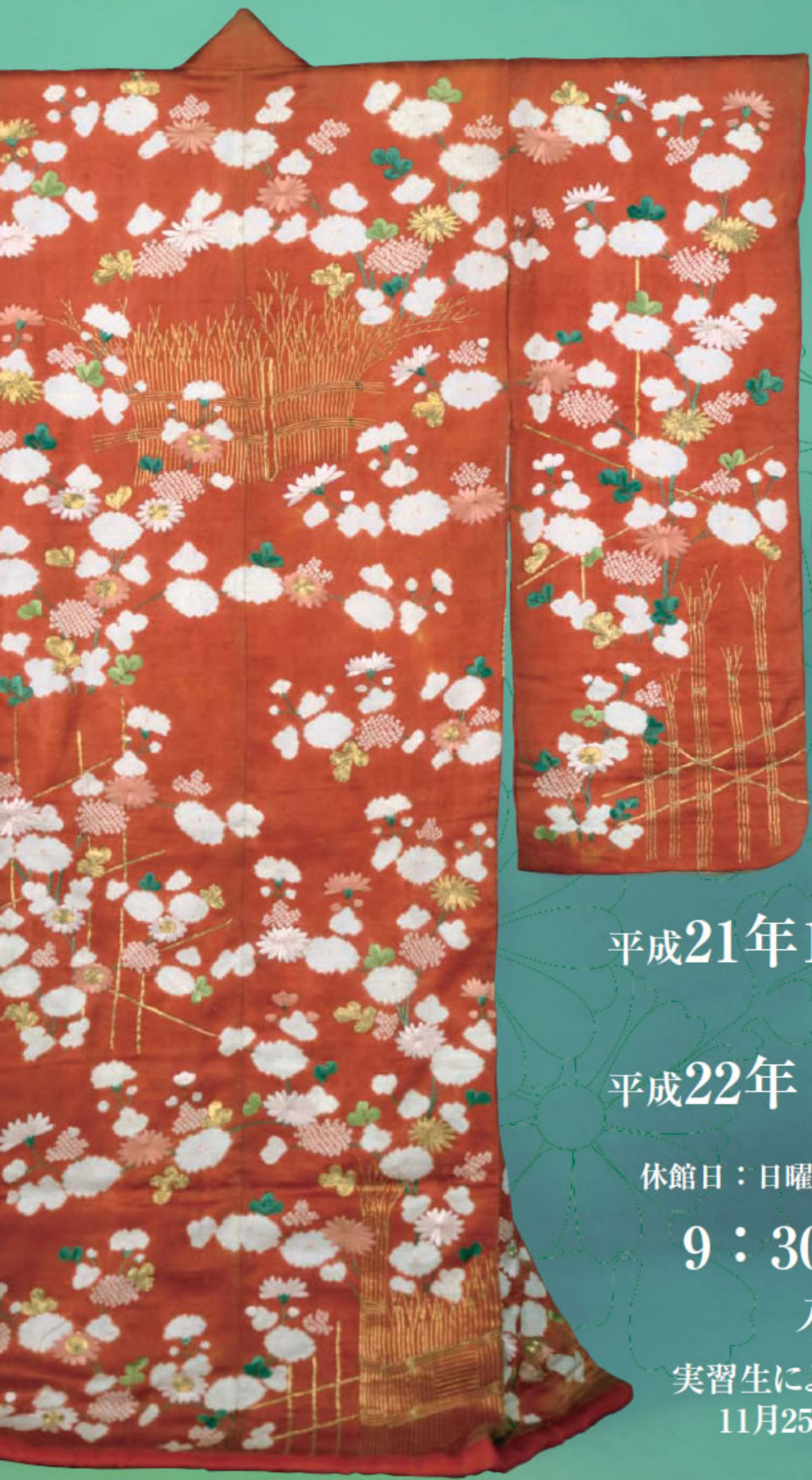

博物館実習生による展示企画

共立女子大学コレクション

菊の意匠

平成21年11月19日（木）
〜
平成22年１月12日（火）

休館日：日曜・祝祭日及び年末年始

9：30〜17：30

入場無料

実習生によるギャラリートーク
11月25日（水）15:30〜

交　通

・東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線
「神保町」駅下車A８出口から徒歩１分
・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車1b 出口から徒歩３分

共立女子大学　神田一ツ橋キャンパス
本館１階展示室

東京都千代田区一ツ橋2－2－1　TEL 03-3237-2425

紫精好地鳳凰桜几帳模様打掛

鶯色絽地光琳菊模様一つ身

菊の意匠

私たちの身の回りには菊をモチーフにしたものが意外なほど沢山あり、人々に愛されたことがわかります。日本では、高貴、富貴、繁栄など多くの願いを吉祥文様として着物に込めますが、菊には長寿の願いが込められています。

菊は奈良時代に中国から渡来し、当時は薬用として利用されました。平安時代に入ると、宮中の重陽の節句（陰暦の九月九日）に、菊酒を飲む宴が催されます。陽の数である九が重なる重九は「長久」と音が通じるため縁起良しとされ、菊は長寿のシンボルの第一として愛でられ「齢草」（よわいぐさ）の異名を持ちました。この頃より菊は観賞の対象となり、その意匠化が始まります。鎌倉時代に入り、菊の文様は大流行を見せます。室町時代から桃山時代にかけて、菊は秋草のモチーフの一つに加えられ、長寿吉祥の対象としてだけではなく、花の美しさそのものの意匠化が進められていきます。

今も昔も、いつの時代になっても願われる末永い幸せと長寿、かわらぬその願いを当時の人々はどの様な形で着物に表し、思いを馳せたのか、本展覧会にて感じていただきたいと思います。